

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット1)

Table with 2 columns: Field Name (e.g., 事業所番号, 法人名) and Value (e.g., 0193600319, 社会福祉法人 鶴川慶寿会).

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。
基本情報リンク先URL: https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JgVjv_0syoCd=0193600319-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 2 columns: Field Name (e.g., 評価機関名, 所在地) and Value (e.g., 企業組合グループ・ダイナミックス総合研究所 介保調査部, 札幌市手稲区手稲本町二条三丁目4番7号ハタナカビル1階).

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・記録を詳しく残し、入居者の変化を詳しく話し合える環境である。
・新型コロナの影響で外出機会がなくなったが、レクリエーション活動、行事等では職員、入所者がコミュニケーションを図り、楽しみながら生活出来るように支援している。
・住み慣れた地域で、その人らしいゆったりとした生活が出来るように支援しています。

当事業所は、むかわ町の西方向にある田浦地区に位置し、閑静な地域にある平屋建て1ユニットのグループホームである。隣接して、同法人の高齢者共同生活住宅や町立保育所があり、コロナウイルス感染予防対策前までは、園児と楽しく交流できる合同での行事も行っていた。法人は、社会福祉法人で特別養護老人ホームを主として運営しており、町民からも信頼が厚く、グループホームは町からの指定管理者として運営している。ホームは、天井が高く欄窓があり、明るく、リビングや廊下も広くゆったりしており、利用者はリビングで、日中は寛いでゆったりのおんびり過ごしている。外には花壇や菜園もあり、季節を感じられる雰囲気があり、認知症高齢者介護の事業所として、町と連携して認知症の理解普及の広報活動に協力するなど地域への貢献も行っているグループホームで、これからも期待したい。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: Item No., Item Description, Assessment Criteria (e.g., 1 ほぼ全ての利用者が), and Results (e.g., 63, 64, 65, 66, 67, 68).

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、事業所内に掲示し、ミーティングや会議などで唱和して、共有し実施につなげている。	事業所の理念を事業所内に掲示し、月2回のミーティングや会議、夜勤者の申し送り後に唱和している。職員が暗証できるよう工夫し、職員間で共有してケアの実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入。地域行事が隣接する高齢者共同生活住宅ごみ荘と、保育園との合同でクリスマス会を開催したり、お祭りで子供神輿が来るなど、地域と交流を図っていたが、去年、今年と新型コロナの影響で実施できていない。	コロナウイルス感染症予防のため、事業所内でのイベントは避け、地域の方からいただいた植物を玄関に飾ったり、地域の方が作ったベンチを玄関に設置したりするなど、地域との繋がりが途切れないよう工夫している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナの影響もあり、地域とのかかわりもなかった。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そのでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナ感染対策の為、書面で通知している	運営推進会議は、書面開催とし、3ヶ月に一度、参加者へ開催内容を郵送している。ご家族からは、面会に来られた際に、情報交換や意見交換を行いサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃ではないが、何かあればセンター長を通して協力関係を築いている。	人員不足の際の対応方法やコロナ対策など、町役場の職員へ連絡し、定期的に情報交換している。また、法人が町の指定管理者な為、施設周辺の補修や環境整備などの協議を行うため、日常的に連携して取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修等で研修を実施し内容も理解できている。玄関の施錠もしておらず、出掛ける時は見守りを実施している。	身体拘束に関する指針やマニュアルを整備し、身体拘束廃止委員会を3ヶ月に1回開催している。また、内部研修を実施することで、身体拘束しないケアに職員全員で取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内での内部研修で虐待についての研修を定期的実施している。虐待があったのではないかと役場に投書が入り、町による職員への聞き取り及び書面の調査を受け、結果虐待行為は認められなかったと調査報告を受ける。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在の所対象者がいない為行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	改正等がある時には、書面で郵送し署名捺印を頂いている。不明な点等があればその都度説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の意見や不満がないか日頃から観察している。面会等や玄関に意見箱を設置し、家族からの意見を反映できるように務めている。	ホーム便りを毎月発行して、利用者の生活状況や運営状況を家族に報告している。また、玄関に意見箱を設置し、いつでも意見を頂ける環境を作るとともに、家族からの意見や要望は来訪時に聞き取り運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議等を利用し意見を求めている。	月2回の職員会議にて、処遇に関する内容や運営に関する内容について、職員から意見や提案をしている。個人面談は、目標管理シートに基づいて年度末に行い、職員からの意見や提案を運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標管理シートの使用方法が変わった為向上心に繋がらない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内で内部研修は実施しているが、新型コロナの影響の為外部に出る機会はなかった。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	新型コロナの影響の為、外部研修等の機会がなかった。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に見学や面談、ケアマネジャー等からの情報を参考に要望に沿えるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込みの相談を受けた段階で困っている事等に耳を傾けている。家族や本人に見学等を勧めホームの雰囲気を見て頂く。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在は対象となる新規利用者がいない。申し込み相談を受けた際に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	近況報告も定期的に行っている。特変があった時や、本人の私物購入の際なども連絡しながら理解が深まるように務めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナの影響から外出自粛をしていたが、自粛が解除された時に町内ドライブを実施している。	コロナウイルス感染症対策のため、外出に関しては自粛しているが、直接面会ができるよう工夫している。年始には初詣へ出かけたり、町の美容室に来ていただくなど、関係が途切れないよう、支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話のきっかけを作ったり、橋渡しなどスタッフがやっている。レクリエーションの場を毎日設ける様にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同法人の特別養護老人ホーム入所への経過があり。家族との関わりを持てるように努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の言葉を大切に、記録に入力している。意思疎通が難しい場合にも寄り添ってケアに繋げていけるよう努力している。	発語がない方や意思疎通が難しい方は、家族に確認したり、日常生活の中から、介護記録に基づいて、利用者の思いや意向を把握するよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の聞きとりや、普段からの本人の言葉や、家族からの情報を得る様にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態を観察し、本人が出来ることを探し実施。定期のケア会議により、日頃の状況についての把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスで介護計画の評価、見直しを行っている。介護計画作成時は、事前に家族様から要望を聞き、近況報告に努めている。	毎月のカンファレンスにて、全利用者のモニタリングを行っている。また、計画作成担当者が原案を作成し、カンファレンスで全体で検討して、家族からの意見等もまとめて現状に即した介護計画を作成している。アセスメントは半年サイクルで行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	会議を毎月行い、見直し情報を共有し、入居者の様子や状態の変化を日頃から観察し、記録をその人の言葉で文章に残している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況に合わせたケアを実施。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナの影響もあり活用できていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関があり、受診時は職員が付き添っている。	一つの協力医療機関への受診の際は職員が付き添って受診している。他科受診も同様に職員が受診し、緊急時も連絡して対応できるよう連携して支援に取り組んでいる。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員はいないが、体調不良時は速やかに受診に繋げている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は担当の看護師と連絡を取り合い、早期退院できるよう医療機関と情報交換に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に説明しており、重度化した場合に再度意向を確認して、同法人の施設や医療機関の紹介など適切な対応をしている。	重度化や終末期の対応は、入居契約時に説明し同意を得ている。重度化した場合は、再度意向を確認して、法人内の施設や医療機関の紹介など適切な対応をしている。看取り介護の対応は行っていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応や手当は常に身につけておき、素早く対応できるようにしている。救命処置(AED)を設置し全職員が実践できるように努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時マニュアルを設置し避難誘導等を実施している。消防に協力要請を行っている。	火災による避難訓練は、年2回日中夜間想定で消防署の指導の下、定期的を実施することで全職員が避難方法を身につけることができるようにしている。	火災の避難訓練は定期的に行っているが、地震及び水害等の災害時の対策も含め、BCPの作成及びBCPIに基づいた避難訓練の実施、備蓄の管理等を行い、安全に災害対策が講じられるよう期待したい。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会議等で話し合いを行っている。起床後など職員が一人の時は大声で注意をしたりすることがある。	月1回開催している職員会議もしくはケア会議にて、対応方法や接遇に関する検討を行っている。また、年度初めにマナー研修を実施して、対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いが表出しやすいような関わりを心がけている。希望が言い易い雰囲気作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望に沿って支援している	個々のペースで生活して頂けるように、努力し心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	施設行事などで化粧をしたり、洋服でお洒落をする等支援をしている。2か月に1回訪問美容室で整髪に心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の片付けは力量に合わせ手伝いを行って頂いている。月の行事としておやつ作りなど職員と一緒に作って食している。本人の誕生日に好みの物を提供したり、前庭でバーベキューを行っている。	利用者には下膳とお盆拭き、テーブル拭きなどを手伝っていただいている。また行事食は、農協に依頼して出張寿司に来ていただいたり、前庭でのバーベキューも行っており、食事が楽しみなものになるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重等の確認を取りながら盛り付けなどの見直し、食器等の見直しを行っている。水分量も一日量を摂る様に声掛けしている。本人が摂取しやすいように工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施している。動作が継続できるように支援したり、介助が必要な入居者には、その人に合った介助をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレは奥行きが広く、ゆったりしているが、便座が高い為自立している利用者も失敗することがある。支援の必要な入居者には、その人に合った時間や関わり方で対応している。	トイレは奥行が深く広くゆったりしている。個々の排泄パターンを把握して、時間を見ながら声掛け誘導し、トイレでの自立した排泄に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便を確認し、薬だけに頼らずにヨーグルト等を提供し、排便コントロールを行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	おむね時間は決まっているが、本人の体調や拒否された時は、日にちや時間をずらして声掛けを行っている。	浴室は洗い場が広く、ゆったりしている。入浴は午前中のみと時間が決まっているが、週2回入浴しており、利用者の状況に合わせて個々に沿った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動の声掛けを行い、休憩時間は本人のペースに合わせている。就寝時は各居室でテレビを観るなどし、個々に眠りにについている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1日分ずつ内服管理をしている。毎日のバイタル測定。血圧・浮腫に気を付け、かかりつけ医と連携して、薬の調整を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や得意不得意を見つけ生活の中で取り組んでいる。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホームの行事として戸外に出かけられる様に支援しているが、新型コロナの影響で思う様に出かけられなかった。 自宅帰省等は自粛している。	コロナウイルス感染予防の観点から、外出行事は自粛していたが、次年度の年度計画はもちろん、以外の行事を担当者が検討している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は預かっている。外出時買い物や外食が出来る様にしているが新型コロナの影響の為実施できていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様から電話がかかってくることもある。希望に応じて電話支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	わかりやすいトイレ表示や居間や居室に湿度計を使用し健康面に配慮している。壁紙は季節に応じた飾りを入居者と一緒で作成して展示している。	共用空間は、天井が高く天窓があり、採光や風通しもよく、温度湿度に配慮し床暖房で暖かい。居間や食堂は、広くゆったりしており、壁には、利用者の作品や季節の飾りが掲示され、利用者がリビングで居心地良く過ごせるような工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子などを置き独りになれるスペースを作っているが、ほとんど皆居間で過ごしている。居間のソファで思い思いに過ごせるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの物を持って来て頂いている。仏壇を置かれている方もいる。	居室には、洋タンスと大きな収納があり、広い作りとなっている。家族と相談しながら、使い慣れた家具や馴染みの物を持参して、利用者が居室で居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できるだけ自由に動けるよう配慮している。転倒が起きないように見守りを行っている。分かりやすい目印や名前を貼る等の工夫をしている。		